

まちを襲う 不況の波 乗り越えるために できること——



2割の特典が付いた買物券

町商工会では3月25日、緊急経済対策の一環として企画した「プレミアム付お買い物券」の販売を開始した。

この事業は国からの地域活性化・生活対策臨時交付金を財源とした町からの補助630万円などで賄われている。

町民向けに、町内限定で流通する買物券を発行し、消費活動を促す考え。1セット5,000円(1枚500円の券が12枚入り)のお買い物券を購入すると、6,000円分の買物券ができる。消費者は2割(1,000円)余分に買えるとあって「お得感」はかなり大きい。2割の上乗せは、県内最高レベルの特典だ。

販売開始前から長蛇の列が

25日午前8時30分の販売開始前、販売場所の商工会2階会議室には既に購入者が長蛇の列をなしていた。

その数はざっと40人以上。売り切れてしまう前に購入したいという人が会場にあふれた。

初日から売れ行きは非常に好調だ。開始から約1時間、かなりの購入者が訪れ、券は飛ぶように売れた。販売に当たった商工会職員は、ひっきりなしに訪れる購入者への対応に、うれしい悲鳴を上げた。商工会職員に聞いた。

「購入上限の5万円分を買っていく人が多いですね。やはり得する分が大きいからだと思います。この勢いなら、週末までに売り切れてしまうかも。うれしいことです」と話していた。

同日、商工会本川根支所(千頭)でも同券を販売開始。電話で売れ行きを問い合わせしてみた。

「朝から始めて2時間ほど、すでに50人近い人が購入されました。行列ができるほどの混雑はありませんが、ずっと途切れることなく購入者が訪れています。今日

急降下を続ける日本経済。景気の後退、雇用の問題など、暗いニュースが連日テレビや新聞をにぎわせる。2008年10-12月期の実質GDP成長率(年率換算)はマイナス12.1%。35年前の石油ショック以来、最悪の数字だ。減産↓雇用環境の悪化↓消費低迷という「負の連鎖」が浮き彫りとなり、先行きの不透明感から、さらなる景気後退が懸念されている。日本全体が、暗いトンネルの中をさまよっているようだ。このほど本町商工会では、景気回復の起爆剤として「プレミアム付お買い物券」を発行。「冷え込む消費活動を打破するきっかけになれば」と関係者の鼻息は荒い。暗いトンネルの、明るい「出口」となるか。取り組みをレポートする。

GDP：国内総生産 国民総生産から海外で得た純所得を差し引いたもので、国内の経済活動の水準を表す指標。GDPの伸び率が経済成長率に値する。

一日はずっとこんな感じだと思えます」と、好調ぶり話してくれた。

景気回復のきっかけ

販売初日の1日を終えた。販売実績はざっと見積もって2,000組(両会場計)。販売初日で発行枚数の約3分の1が売れた計算だ。

商工会および本川根支所では、3月25日から27日までの3日間、夜7時まで時間を延長して販売。また、28、29日の両日は土日にもかかわらず職員を配置し、販売を実施した。初日の売れ行きを見守っ

ていた中村国海商工会副会長に話を聞いた。

「初日の売れ行きは、思った以上に好調ですね。朝、同報無線で一斉放送してもらった効果が大きかったのかもしれない。このままいけば、週末までにほぼ完売してしまうかも。この券が町中で使われるようになれば、本町の経済が動き、多少なりとも活性化するのではと見込んでいます。町を『盛り上げる』という大きな効果を生んでくれることを期待しています」と話していた。

このインタビューの最中

にも、問い合わせの電話は途切れることなく事務所内に鳴り響いた。商工会職員は、その対応に追われていた。

このプレミアム付お買い物券は、発行から1週間あまり、4月2日にすべて完売した。4月中旬、ある自動車整備工場を訪ねると、「既にこの券を使う人がかなり出始めています」と、従業員は話していた。確実に、その効果は出始めている。町の景気回復を狙って発行されたこの券。使用期限である9月末までに、どれほどの効果を生むのだから。



プレミアム付お買い物券 購入第1号・第2号の人に 話を聞いた

1「わたしは、いつも町内で買い物をすることが多いです。今回、町のためになるならと思い、券を購入しに来ました。使い勝手が良さそうな券で、とてもうれしいです。これからどんなことに使おうか考えてみます」。

2「わたしの家には、まだ住宅用火災警報器を取り付けていません(3月25日時点)ので、この商品券を使って、地元の工務店さんに設置をお願いしようと思っています」。

プレミアム付お買い物券の財源は、町からの補助(財源：地域活性化・生活対策臨時交付金)の630万円などで賄われている。町が補助する630万円の内訳は、プレミアム上乗せ分600万円と事務費30万円。2割の上乗せは県内最高の特典となっている。



券の販売初日、朝8時30分前。会場には購入希望者が長い列をなした。この券を購入した人たちが、町内の事業所で使ってくれることで、町の景気は回復していくはずだ

うか。この事業のみで、不況の問題がすべて解決できるわけでは当然ない。しかし、その起爆剤になればという商工会や行政の思いは、

しっかりと町中に届けられたはずだ。

川根本町商工会

☎(56) 0231

同本川根支所

☎(59) 2258